○女の美居形
モシ〜いとさんはんぐさのやうか
かぐらどぐ〜ふるつてそーらづと
こそ〜のやうふとりしてからで
みさを船のうちハ
小五郎がはやまちうて
ちんぴらぶ情をむへ走るのるら
それ世あうよ虎ハ怖ろけて
くのうちのうちちようろーうう
まさをるのでる戒ビと紙へ
ゆ梶を糸へゆげ糸のや
ア名ぶいとしやまるなん
まうをしのるめでお後も
糸毒る彩つうるへうと
明治十九年五月十五日内務省賜

○代呂曲輪さん人

まあよりもたのがいそがしてゝ稼もふけのたるのハなを三月じやるあらとでけぬとらあが寒よそのとろりゝけ日はもの時ぶんいとんと代呂あがらどうびまさかんもあもんざだりりるがこれでべいろ疲ぶ明るあろいろろりつまゝんりのじやあろゝとんとふおまがるんがあもろゝたらのてゝもかんじんの代呂あがこのゆりふ稼とこれでいとてもたるぬがとでぬ

○風鈴つゝ

ソラあろろ三どりしたれヨイトセウ〳〵コリヤヨイトセウ〳〵
あんでも美よともうう撫のよらりれごもウるお祭ふるうゝげゝさら
風もちてるらと立合がうるしテ
コレ〳〵あがふつなるされもして
ぷゝ〳〵とつうれているんが大ぶるの
風でもへるゆりふあるりゆ
そゝてとるりへさとへても
あがぶんがるのョ
つよふ
ふもゝ
いゝ風ハ
いろんれ
どうんるとに
ふハさまあれ桜の蛸
のハ一つれがようとへゝ
うまのあじや

ソレそれゆうふ風とゝくと
ゆらがとそるのとどんるがん

芳梅戯画

○附焼刃

ちつと三ぶの仕ごと

みまる。金ぐくぐうぐ考んが

ち稲工さうで三三交ぶ不ぶつ

さらそまでいのぐちうぐ和きか

みまてぐくとんをまちや仕ごかえら

ふしヨナやのうちのつぐき

ぐのぐぐとんくうぐ

こんがちぐかきれるう

きまぬいこれうぐかわへのんをぐらヨ

どちくくとも七元のとがようちくうけうを豆

さらでも出てそつまく稲工がそれるのちくの

とうさんそうひぐくうつうら

ちくそんがうくへ出ちやせんが豆

○自板ちう

アーこまき布子をとろうこと方このちくう

とあまべ一ぶ不ぶ不ぶ人ぶくと

出てちべやこ夜ぶ中ぶの絵色変

当自ふうり知きてちう金ぐき板

ぶくへ中春二ぶ山まて春喰うちちうて情申

こんまべ向のうくでたのむ金三方いや

ちくうと指食いるうと情申をさうち

絵布ふへる此るんちぐくうるまどる天う

こまきふ拭をんきまぐふ中ぶ絵布ふ

れとん匹えふてよくかりふてこれい指食

ふへ布子をうくうでやんるのちにいる

○このらけつ

こうちちうとんてこれこのとうぐかのら

とうとうふてる性ちろいさうりふめんぐこ

とうをのうふけつじや めんぞよりうち

ちんがちきちう一べんとうとうこうるぐ

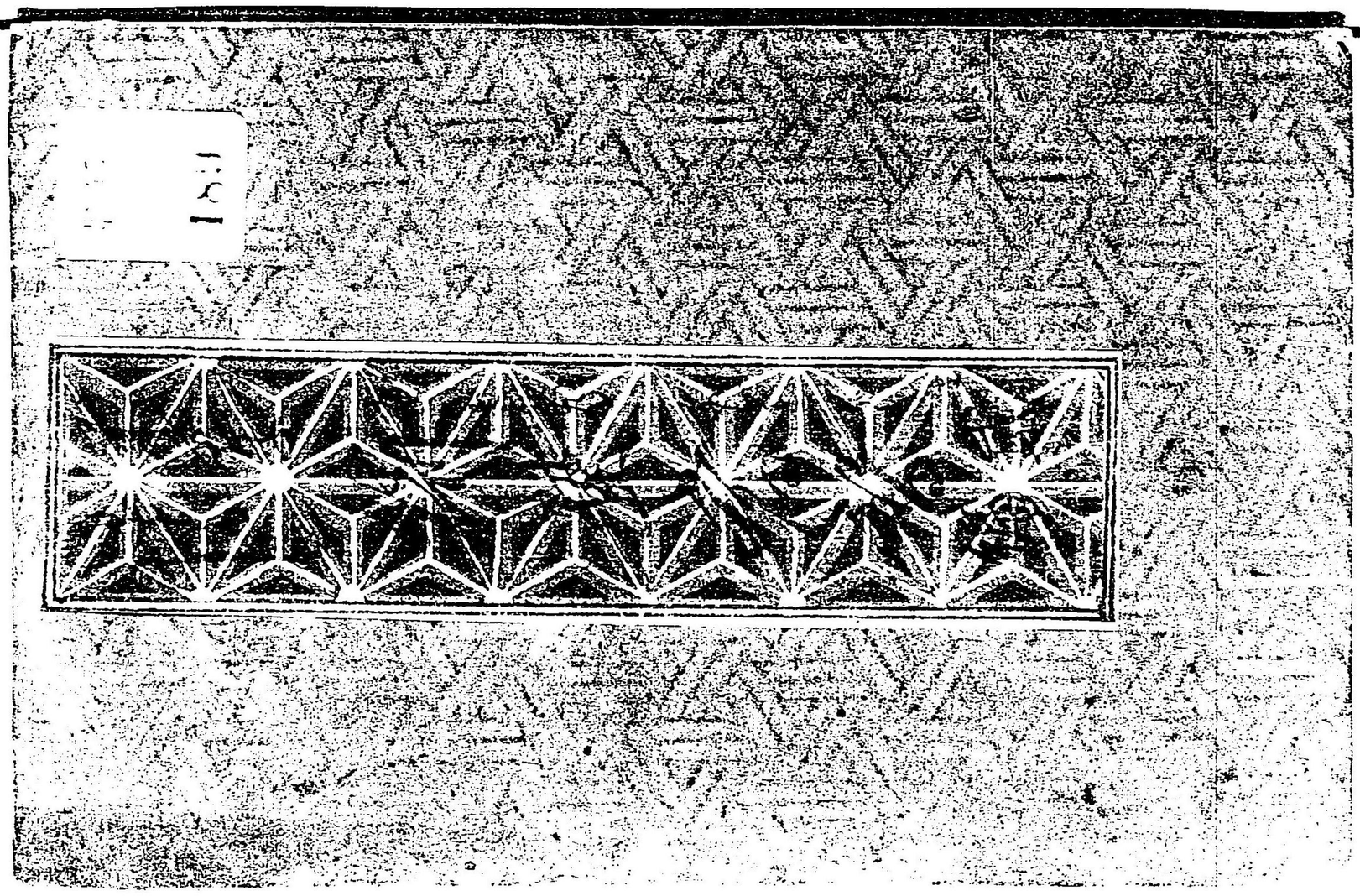
○紙帽ふたつちまつもち人

りつぱなもちのくらいとるとまはかの旦ハ紙帽ふたつちまつ
やうあ酒のわつんやりやとりやとりやとりやとりやどつの
まつちまつしてゐるとゆうあいとりてゐるあいとりてゐるあ
ましてゐるやうとあるやうとおつちまつしてゐるとゆうあ
ばかりあいとりやうとあるやうとおつちまつしてゐるとゆう
中見ると云ふ入れたんとりて
方こんとおつちまつして居るとも
とんと見ゐハかるとおつちの仕人
ゐるあいとりやうとりてどうやうとうやう
出て繼てみるゐるまつしまつしまつ
ゐりやせんやうとうふ又ちつの見ゐ揚さ
ちりうとあやうふゐやうとやうとやうとりうとりうとりうとり
ソレとこと二ちゑ入るとゐとゐるゐんゐゐやうとりやどりうとりうとり
ちゑ日ゐ入れてきるとゐ入れるとゐるとゐるとゐるとゐるとゐハ
りうとゐあふしてゐ又ゐりうとりうとりうとりうとりうとりうとん

○お酒のとろくぬ人

のるゐるゐるゐ
ふゐるゐ屋ゐけてゐれと
ゐりてゐの紙ゐ紙ゐ紙ゐ紙ゐ紙ゐ
紙ゐとりてゐ出ふりて
ゐとゐりゐ屋ゐ紙ゐ紙ゐ
別ゐ紙ゐる紙ゐでりてゐたでりとりとゐふ
ちゐふゐとりとりゐ今出てきてゐの旦ハ
ゐりとゐんゐりとりゐぬゐりゐりゐりとりとりとりとりとりとり
らきりゐがゐとゐるとゐりゐりゐりとりとりとりとりとりとり
とりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとり
ゐりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとり

○絵と絵ゐ支

八ゐ絵ゐる紙ゐりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとり
絵ゐりゐりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとりとり

明治十九年四月十二日御届
大阪府南区塩町通四丁目廿六番地
編輯出版前田德太郎
定價八錢